

大会企画

大会企画3

健康医療介護分野における IoTデバイス活用の現状と将来像

2019年11月23日(土) 14:40 ~ 16:40 A会場 (国際会議場 2階コンベンションホールA)

[3-A-4-02] 当協会における IoTと医療の関わりに向けた取組みについて

○鹿妻 洋之¹ (1. 電子情報技術産業協会 (JEITA) ヘルスケアIT研究会)

キーワード : JEITA, IoT, Society5.0

当協会は電子部品や電子機器、電気製品を取り扱う日本最大級の工業会であり、一部医療電子機器（主として計測機器）も対象としている。最近は、Society5.0の実現に向けた社会課題解決に向けた検討や提言活動も行ってきた。

IoTという言葉が出始める前から、医療機器が医療機関内だけで利用される時代は終わり、在宅等の医療現場や外語施設等での活用・データ収集が普通に行われるようになってきた。

こうしたなか、当協会ではヘルスケア IT研究会を立ち上げ、予防・在宅・介護・見守りの現場で、どのような解決すべき課題があるかの情報収集・解決策の検討を進めている。

昨年度は、報告書「IoTを活用した在宅医療・介護・見守りの実現のために」をとりまとめた。本報告書では、JEITAの考えるヘルスケア IoT・ICTシステムや、このようなシステムの基本構造を示すと共に、ユースケース事例を機能がどのように配置されるのかに着目しながら疾病管理、重症化予防、介護予防、在宅ケア等を中心に多数紹介している。

また、技術面、制度面からの提言も行っており、新たなヘルスケア IoT、ICTシステム・サービスの創出につなげるべく、関係省庁等への紹介とも行っているところ。

本講演では、報告書内容の紹介を行うと共に、今後アカデミアにも参加いただいで議論必要となる事項について問題提起を行いたい。

当協会におけるIoTと医療の関わりに向けた取り組みについて

鹿妻 洋之*1

*1 JEITA(電子情報技術産業協会)ヘルスケア IT 研究会

Research on healthcare IoT at Industrial association

Hiroyuki Kazuma*1

*1 Healthcare IT Special Interest Group, JEITA

Keywords: JEITA,IoT,Sciety5.0

1. JEITA 概要

当協会は電子部品や電子機器、電気製品を取り扱う日本最大級の工業会であり、一部医療電子機器(主として計測機器)も対象としている(表 1)。最近では、Sciety5.0 の実現に向けた社会課題解決に向けた検討や提言活動も行ってきた。

IoT という言葉が出始める前から、医療機器が医療機関内だけで利用される時代は終わり、在宅等の医療現場や外語施設等での活用・データ収集が普通に行われるようになってきた。

こうしたなか、当協会ではヘルスケア IT 研究会を立ち上げ、予防・在宅・介護・見守りの現場で、どのような解決すべき課題があるかの情報収集・解決策の検討を進めている。

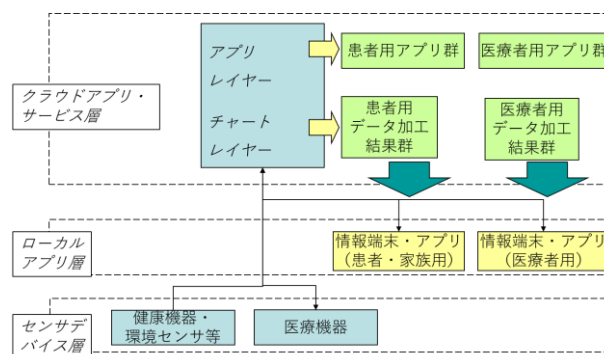


図1 ヘルスケア IoT システムの基本構造

表1 JEITA 概要

代表理事	会長 遠藤 信博 (日本電気(株)代表取締役会長) 筆頭副会長 吉田 憲一郎 (ソニー(株)代表執行役社長 兼 CEO) 専務理事 長尾 尚人 (一般社団法人電子情報技術産業協会)
ミッション	Society 5.0に向けた社会課題を解決するために、あらゆる産業を繋げ、IT/エレクトロニクス産業を中核にしたステークホルダーを結節するプラットフォームを実現する。
沿革	1948年「無線通信機械工業会」設立 1958年「日本電子工業振興協会*」設立 1958年「無線通信機械工業会」から「日本電子機械工業会*」に改称 2000年2団体*が統合して「電子情報技術産業協会」が発足

表2 ユースケース事例

分類	ユースケース名
疾病管理 発症予防	健康維持 疾病予防 家庭バイタル管理
重症化予防	服薬管理(薬の飲み残し予防等) 糖尿病患者ケア(予防軍健康管理) 透析予防
介護予防 口腔ケア 認知症予防 等	外出可能群: 運動機能 口腔ケア 引きこもり群: 認知症予防
在宅ケア	在宅ケアのバイタル測定(有病者) 在宅ケアのバイタル測定(センサ見守り) ロボットセンサの応用例 見守り(精神疾患関連 認知症: 自立支援) 見守り(認知症高齢者) 孤独死防止
新たな 拡大ケース	急性期診断/新型インフルエンザ 災害時、へき地、豪雪地域 保険会社との連携 製薬企業デジタルヘルス・治療アプリ 働き方改革と睡眠の質 ACP(Advance Care Planning) 子どもの連れ去り、虐待の早期発見

2. JEITA ヘルスケア IT 研究会の活動

昨年度は、報告書「IoTを活用した在宅医療・介護・見守りの実現のために」をとりまとめた。本報告書では、JEITAの考えるヘルスケアIoT・ICTシステムや、このようなシステムの基本構造(図2)を示すと共に、ユースケース事例を機能がどのように配置されるのかに着目しながら疾病管理、重症化予防、介護予防、在宅ケア等を中心に多数紹介している(表2)。

また、技術面、制度面からの提言も行っており、新たなヘルスケアIoT、ICTシステム・サービスの創出につなげるべく、関係省庁等への紹介も行っているところ。

本講演では、報告書内容の紹介を行うと共に、今後アカデミアにも参加いただいで議論必要となる事項について問題提起を行いたい。

参考文献

- 1) 未来投資会議,首相官邸
[<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/>]
- 2) ヘルスケア IT 研究会,経済産業省
[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/kenko_iryu_joho/index.html]